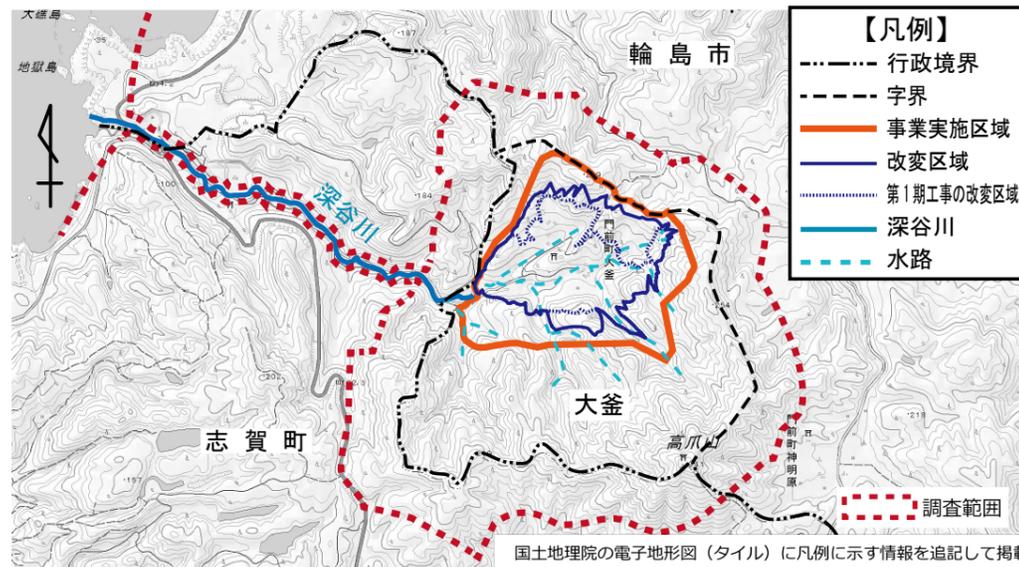


(株)門前クリーンパークでは、2018年3月、環境影響評価書に基づく事後調査に着手し、移植等の環境保全措置を実施するとともに、同年10月まで第1期工事着工前の水質汚濁、植物、動物、生態系について調査を行いましたので、その結果を公表します。

動植物の調査結果については、環境影響評価現況調査時と比較すると、新たに確認されたものがある一方で、生育環境の変化等により確認されなかったものがありました。

今後、第1期の本体工事を開始しますが、今回の調査結果等を踏まえて、引き続き、専門家の助言を受けながら、工事の影響等のモニタリング及び必要な環境保全措置を講じるなど、適切に取り組んでまいります。



○動物：希少猛禽類の繁殖状況調査
保全対象種3種に加え、新たにノスリの営巣を確認

○動物：赤外線センサーカメラ調査
事業実施区域外でミソゴイを確認

- ノスリ：第1期工事の変更区域外で営巣・巣立ちを確認
- ミサゴ：事業実施区域外で営巣・巣立ちを確認
- ミソゴイ：事業実施区域外で確認。事業実施区域内で営巣は確認されず
- 環境保全措置

第1期工事の変更区域外で営巣が確認されたノスリについては、専門家の助言に基づき、4～7月上旬（巣立ち時点）の間は、樹木伐採工事を自粛するほか、引き続き繁殖状況に留意していく



○植物・動物・生態系：旧水田を湿地環境として整備し、動植物の生息状況を調査



○水質汚濁：深谷川の水質及び流量調査
水質は国の基準等を満足、河川流量は環境影響評価の現況調査時と比較して変化なし



○植物：変更区域内の保全対象種調査、移植実施（保全対象19種のうち6種を確認し、4種移植）



○植物：変更区域外（隣接地）の保全対象種調査（保全対象5種のうち2種を確認）



○動物：哺乳類のねぐら利用状況調査（廃屋、1カゲート1°でねぐら利用を確認）



○動物：変更区域外（隣接地）での保全対象種調査（保全対象1種（ヒメボタル）を確認）



○動物：河川に生息する保全対象種調査、移植実施（保全対象4種のうち3種を確認し、2種を移植）



○植物・動物・生態系：深谷川下流に生育する動植物の生息状況調査



○動物：潮間帯の生物調査



○生態系：フクロウの生息状況調査（事業実施区域外で営巣を確認）



○生態系：巣箱の設置（変更区域外で3箇所6台のフクロウ用巣箱を設置）

I 環境調査の実施状況（工事着工前の現況確認）

第1期工事着工前の水質及び自然環境の状態を把握し、工事中の影響を把握するための基礎情報を整理しました。

①【水質汚濁】

- ・深谷川の水質は、国等の環境基準や排水基準、指針値等を満足。水量は環境影響評価現況調査時と比較して変化なし
- ・地下水位は、環境影響評価時（2014年）と比較して変化なし

②【植 物】保全対象種の生育状況

- ・改変区域内の保全対象19種のうち、6種（カラタチバナ、キセワタ、ササユリ、ヤブミョウガ、ホクリクムヨウラン、コケイラン）は改変区域内で、1種（シャジクモ）は改変区域外で生育を確認
- ・改変区域外（隣接地）の保全対象5種のうち、2種（シラコスゲ、クマノゴケ）の生育を確認

③【動 物】保全対象種の生息状況（鳥類以外）

- ・哺乳類：改変区域内外の廃屋等で保全対象1種（キクガシラコウモリ）の生息を確認
- ・魚 類：改変区域内で保全対象2種のうち、1種（カジカ（陸封型））の生息を確認
改変区域外においても保全対象2種のうち、1種（カジカ（陸封型））の生息を確認
- ・両生類：改変区域内で保全対象4種（アカハライモリ、モリアオガエル、アカガエル類、トノサマガエル（幼生を除く））の生息を確認
改変区域外で保全対象3種（アカハライモリ、モリアオガエル、アカガエル類）及び新たに1種（トノサマガエル）の生育を確認
- ・爬虫類：環境影響評価現況調査時に改変区域内で生息が確認された保全対象1種（シロマダラ）を改変区域外で確認
- ・昆虫類：改変区域内で保全対象3種（ババジョウカイ、コムラサキ（幼虫を除く）、ヒメボタル）及び新たに1種（ミズスマシ）の生息を確認
改変区域外で保全対象3種のうち、2種（コムラサキ、ヒメボタル）の生息を確認
- ・底生動物：改変区域内で保全対象1種（ナタネミズツボ）の生息を確認
環境影響評価現況調査時に改変区域外で生育が確認された保全対象1種（ヒラマキカイモドキ）は生息を確認できなかった。

④【動 物】保全対象種の生息状況（鳥類）

- ミサゴ：事業実施区域外の高木で巣立ちを確認
（当該営巣地で営巣を継続した場合でも本体工事が繁殖活動に及ぼす影響なし）
- サシバ：事業実施区域内外で繁殖活動なし
- ハチクマ：事業実施区域内外で繁殖活動なし
- ノスリ：第1期工事の改変区域外で営巣木及び巣立ちを確認
- ミゾゴイ：7月下旬に事業実施区域外で成鳥1個体の生息を確認。4月～7月下旬まで事業実施区域内で個体や鳴き声、巣は確認されていないため、事業実施区域内で繁殖している可能性は低い
- サンコウチョウ：改変区域及びその周辺に広く分布するが、営巣は未確認

⑤【動 物】潮間帯の生物の生息・生育状況

- ・潮間帯の主な魚類、付着生物、海草、海藻の生息・生育状況を確認（動物27種、海藻等35種）

⑥【生態系】フクロウの餌資源の状況

- ・餌資源のネズミ類は樹林環境で多くなる傾向を確認

⑦【生態系】湿地環境及び流水域の維持管理後の動植物の状況

- ・旧水田でモリアオガエル、アカガエル類の産卵を確認

⑧【生態系】深谷川下流に生息する動植物の生息の状況

- ・深谷川における動植物の生息・生育状況を確認（魚類9種、底生動物2種、植物8種）

⑨【植 物・樹林地】湿地環境の維持管理後の植生の状況

- ・旧水田でシャジクモやコナギ等湿地環境に生育する種の定着を確認

II 環境保全措置の実施状況

環境影響評価書に記載した環境保全目標を達成するため、環境保全措置を実施しました。

①【植 物】改変区域内で確認された保全対象種

- ・移 植：4種（カラタチバナ、キセワタ、ヤブミョウガ、コケイラン）は移植済。第1期工事の改変区域外に生育する2種（ササユリ、ホクリクムヨウラン）は専門家に相談し2019年春に実施する。
- ・その他：環境影響評価現況調査時に改変区域内で生育が確認された保全対象4種（イチヨウウキゴケ、ジュズフラスコモ、チリフラスコモ、シャジクモ）が生育していた場所の表土を「湿地環境として整備した旧水田」に撒きだし済

②【動 物】改変区域内で確認された保全対象種（鳥類以外）

- ・キクガシラコウモリ：ねぐらである廃屋等の解体工事を冬季に実施する。
- ・カジカ（陸封型）及びナタネミズツボ：深谷川下流に移殖済
- ・アカハライモリ、モリアオガエル、アカガエル類：旧水田に移殖済。
- ・トノサマガエル、コムラサキ：幼生等が確認されなかったことから、移殖を実施しなかった。

③【動 物】改変区域内で確認された保全対象種（鳥類）

- ・第1期工事の改変区域外で新たに営巣が確認された希少猛禽類「ノスリ」は、専門家の助言を受け、繁殖時期に配慮した工事計画とする。その他、工事中も調査を継続し、専門家の助言を受けながら、環境省の保護方策のガイドライン等を参考に、必要な環境保全措置を講じる。

専門家の助言：ノスリの繁殖活動に配慮し、4月～7月上旬（巣立ち時点）の樹木伐採工事は自粛すること。事業実施区域内でミサゴ、サシバ、ハチクマ、ミゾゴイの繁殖が確認された場合は、繁殖兆候確認後から最長8月頃（巣立ち時点）までの樹木伐採工事を自粛すること。ノスリに配慮した樹木伐採工事を行うことで、サンコウチョウについても環境保全措置が図られる。また、建設機械は低騒音型を採用し、稼働音に配慮すること。

④【生態系】巣箱の設置

- ・事業実施区域周辺に推定3ペアのフクロウの生息を確認（事業実施区域外で営巣を確認）
- ・フクロウの営巣環境を保全するため、巣箱を改変区域外の3箇所に各2台設置済

⑤【樹林地・植物・動物・生態系共通】旧水田の維持管理

- ・事業実施区域西端の旧水田2箇所に「湿地環境」を整備
（保全対象種のシャジクモの生育やアカハライモリ、モリアオガエル、アカガエル類の産卵を確認）
- ・雑草の抑制等適切な維持管理を通じて良好な状態を維持する。

⑥【樹林地・植物・動物・生態系共通】緑化計画による植栽

- ・ハンノキ、ジャヤナギ、オニグルミ等について旧水田内で移植や挿し穂を実施
- ・繁茂した外来種（セイタカアワダチソウ）の駆除を実施

III まとめ

水質汚濁の調査結果については、国等の環境基準や排水基準、指針値等を満足していました。

動植物の調査結果については、環境影響評価現況調査時と比較すると、新たに確認されたものがありました。

改変区域内等で確認された保全対象種については、環境影響評価書記載のとおり、環境保全措置（動植物の移殖等）を実施しました。

引き続き、専門家の助言を受けながら、工事の影響等のモニタリング及び必要な環境保全措置を講じるなど、適切に取り組むこととしておりますことから、工事を行っても自然環境に著しい影響を及ぼさないものと判断しました。

保全対象種の確認状況

区分	環境影響評価書 (2008年～2009年)		今回の調査 (2018年3月～10月)	
	改変区域内	改変区域外	改変区域内	改変区域外
植物	19	9	6	3
哺乳類	1	1	1	1
魚類	2	2	1	1
両生類	4	3	4	4
爬虫類	1	-	-	1
昆虫類	3	3	4	2
底生動物	1	1	1	-

※数字は、種数を示す。
確認されなかった種のうち、特に植物は生育環境の変化により自然に減少した可能性がある。

区分	環境影響評価書 (2008年～2009年)		今回の調査 (2018年3月～10月)	
	事業実施区域内	事業実施区域外	事業実施区域内	事業実施区域外
鳥類(営巣)				
ミサゴ	なし	あり	なし	あり
サシバ	あり	あり	なし	なし
ハチクマ	なし	なし	なし	なし
ノスリ	なし	あり	あり※1	なし
サンコウチョウ	あり※2	可能性あり※3	可能性あり※3	可能性あり※3
ミゾゴイ	なし	-	なし	なし※4
フクロウ	あり	なし	なし	あり

※1：第1期工事の改変区域外
※2：営巣地またはその可能性のある場所
※3：繁殖期に生息を確認（営巣している可能性あり）
※4：赤外線センサーカメラで生息を確認